

アポイ岳ジオパークによる地域づくり

Community Building with Mt. Apoi Geopark

水野 洋一 [1]; # 原田 卓見 [1]

Youiti Mizuno[1]; # Takumi Harada[1]

[1] 様似町教育委員会

[1] Samani Board of Education

<http://www.hokkai.or.jp/samani/>

アポイ岳を有する様似町は、北海道のほぼ中央を南北に走る日高山脈の南西に位置している。人口は約5,400人で、昆布採取やさけます定置網漁などの沿岸漁業を主体としており、歴史の浅い北海道の中では比較的早くに拓けた地域である。

様似町は、このたび、アポイ岳のかんらん岩などを題材とした自然教育とジオツーリズムの推進によるまちづくりを進めようと、日本ジオパークネットワークへの加盟を申請し認められた。本稿では、アポイ岳ジオパークの豊かな自然とその保護活動、教育への活用等について紹介する。

アポイ岳は、様似町の南東に位置する標高約810mの山で、その語源はアイヌ語の「アペオイヌプリ」で、「火の多い山」という意味である。アイヌの人々が山の頂に祭壇を設け大火を焚き、食糧である鹿の再来をカムイ（神）に祈ったという伝説に由来している。

アポイ岳とその周辺は、新生代中新世後期（約1,300万年前）に東側の北米プレート（千島弧）が西側のユーラシアプレート（東北日本弧）に衝突してできた日高山脈の上昇とともに、地下50～60km深部の上部マントルから持ち上げられた「かんらん岩」でできている。幌満かんらん岩（Horoman peridotite）と呼ばれ、その露出範囲は東西約8km、南北約10kmに及ぶ。このかんらん岩は、以下の点で学術的に極めて貴重である。まず、かんらん岩がきれいで新鮮であること。つまり、地下深くの上部マントルにあった鉱物がそのままの組織や化学組成を残しており、かんらん石・斜方輝石・単斜輝石・スピネルが肉眼でよく見えること。さらに、非常に多彩なかんらん岩であること。つまり、さまざまなタイプのかんらん岩が層状複合岩体をつくり、地球深部の上部マントルで起こる玄武岩質マグマの生成や上昇移動などのいろいろな地質プロセスを示唆する学術情報源になっていることである。このため、様似町には毎年、多くの研究者や学生が訪れており、これまでに第4回国際レルゾライト会議（2002年）など3つの国際会議が開催されたほどである。

また、アポイ岳は810mという低い標高にもかかわらず、80種以上の高山植物、約20種の固有植物が生育するなど貴重な植生を有しており、1952年には高山植物群落が国の特別天然記念物に指定されているほか、天然記念物の高山蝶「ヒメチャマダラセセリ」や、通常は2,000m以上の高山に生息する氷河期の生き残り・ナキウサギが標高50m地点で確認されるなど、高度な自然資料を有している。

花の山・アポイ岳では、1996・1997年に発生したヒダカソウなどの大量盗掘を契機に、高山植物盗掘のキャンペーンやパトロール、踏み荒しを防ぐ登山道整備などの保護活動を行政と民間団体である「アポイ岳ファンクラブ」が一体となって行っている。

また、地球温暖化の影響とも考えられる岩隙地の森林化を逆行遷移に誘導することで、花々が再生する可能性を探ろうと、2005年に研究者、アポイ岳ファンクラブ、行政をメンバーとする「カムバック1952アポイ岳再生委員会」を設立し、国立公園特別保護地区近くの民有林地で地表攪乱を行って人工的に岩隙地をつくり、そこに高山植物を播種する試みを続けている。ここでは、2008年春にエゾコウゾリナが見事に花を咲かせており、2009年はさらに実験地を広げデータを蓄積することとしている。

一寒村である様似町には、もちろん大学などはない。また、最も近い大学のある都市からも約120km離れている。しかし、様似町には、アポイ岳を中心とした豊かで貴重な自然があるため、毎年全国各地から多くの大学が調査研究に訪れる。様似町では、こうした研究者とコンタクトを重ねることで、自分たちがいかに貴重な自然環境に身を置いているかを再認識する学習会を行ってきた。さらに、1997年には研究者や学生の長期滞在のための宿泊施設「アポイ岳調査研究支援センター」を開設し、研究者の支援や交流を継続的にサポートしているほか、アポイ岳登山客などが利用するホテル「アポイ山荘」、アポイ岳の自然情報を提供する「アポイ岳ビジターセンター」をそれぞれアポイ山麓に整備し、観光と自然教育の連携に力を入れているところである。

「アポイ」の名は、地元の学校の校歌に、町の歌に、町民憲章に、文化・スポーツ団体の名前に、文集や会報のタイトルにと、あらゆるところに登場し、私たち様似町に住む者にとっては心のよりどころとなる存在である。様似町は、アポイ岳ジオパークの運営を通じて、今後ともアポイにかかわって訪れる研究者をはじめ、地質や自然を愛する人々の訪問を歓迎する。それが町民にとっての誇りや地域の価値を見出し、小さくともキラリと光るまちであり続ける道と考えるからである。